



美山中学校だより



行事や大会を通してさらに成長を

色づき始めた木々と冷たい空気に、秋本番から冬の入り口にさしかかったことを感じます。日頃は、本校の教育活動に、格別のご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。



さて、本年度は1学期・2学期ともに諸行事を予定通りに終えることができ、少し余裕を持った形で、各学年の次の取組に向けて順調に動き出せています。文化祭以降は、駅伝や新人大会が開催されており、それぞれに目標を持ったチャレンジをしています。あとはバレーボールの大会を残すのみとなりました。

終わった大会では苦戦したり、悔しい思いをしたりすることもありましたが、今年度は当初より、「小規模を言い訳にしない」を合い言葉にしています。対戦相手や勝敗に関わらず、自らのレベルアップに視点を当て、より高いものを求める姿勢を身につけてほしいと激励しています。そのことが自身や集団の“あるべき姿”を高め、勉強や行事、スポーツでの力につながっていくと考えています。ご家庭や地域でも応援をよろしくお願いします。



今年も職場体験をお世話になります

令和2年度以降は、コロナ禍により実施を見合わせる学校が多い中、町内を中心に各事業所のご理解をいただき、今年も11月8日(火)～10日(木)の3日間の予定で2年生が職場体験学習を実施致します。この体験を通して、働くことの意義や目的に触れ、職業観や勤労観を培うこと、合わせて地域の方々とのコミュニケーションを通して社会性を身につけることを目標にしています。体験先の皆さんだけでなく、お客様として関わっていただく機会もあると思います。どうか、温かい目で見守っていただきますようお願いします。



お世話になる職場体験一覧(順不同)

勝山商店悠々ひろば(かやぶきの里)	江和ランド	枕川楼
美山自然文化村河鹿荘(美山ふるさと(株))	みやまこども園	田歌舎
牛乳工房(美山ふるさと(株))	美山郵便局	太田自工
ふらっとみやま(美山ふるさと(株))	京都美山サラダ館	大野屋
株式会社KCNなんたん	(株)木村	

文化協会に応募した俳句作品より

学 年	作 品	氏 名	感想・解釈
1	わかあゆ かわぞこはし いと ひ 若鮎や 川底走り 糸を引く	いそがい あきひろ 磯貝 輝裕	夏の楽しみ、鮎の友釣り。掛かり鮎がオトリを引っ張って走るあの感覚がたまりません！
	なつまつ み あ そら えがお さ 夏祭り 見上げた空に 笑顔咲く	うめさお 梅棹 るな	花火なんでしょうね。みんなの笑顔が印象に残ったのか、それともスマイル型の花火？
	はださむ きり ふゆとなり 肌寒さ 霧がただよう 冬隣	おおした のぞみ 大下 希実	ちょうどこの時期、霧が立ちこめるような朝は寒くて、冬がそこに来てることを実感します。
	たの きょうそう ゆうぐ とんぼたち 楽しく競争 夕暮れに	にしぐち このみ 西口 好美	夏休みの終わり頃から、夕暮れに飛び始めるトンボが乱舞する様子が目に浮かびます。
	あぶらぜみ ぼく しゆくたい あせ 油蟬 僕の宿題 焦らせる	まえだ こうし 前田 暁志	騒がしい蟬の鳴き声が、宿題に追い込みをかけているのに、さらにせき立てるようです。
	しもばしら な ふゆ あさ 霜柱 バリバリ鳴らす 冬の朝	みずぬま みはる 水沼 美陽	凍てつく寒い朝、寒さはつらいけど、霜柱を踏むあの感覚が気持ちいいんですね。
2	さと ちょうわ ニシキギと かやぶきの里 調和する	かじ たまき 加地 碧希	三大紅葉樹ニシキギが庭にある民家？それとも葉っぱごしに里全体を見渡した風景かな？
	くりひろ くり わ うんだめ 栗拾い いが栗 割って 運試し	ともと そうしん 戸本 颯心	大きな栗が一つ出てきたらあたり？ それとも二つ入っている方がラッキー？楽しそう。
	なつ ほうすいじゅう かやぶきの 夏のはじまり 放水銃	ながの あきと 長野 彰斗	多くの見物客を呼ぶ5月の一斉放水が終われば、いよいよ夏という感じです。そろそろ半袖。
	ぎおん ひのき かお おに めん 祇園さん 桧の香る 鬼の面	ながの 長野 うた	田歌伝承の祇園祭。中学生も立派な担い手として面をかぶっているのかな。癒やしの香り！
	いね きん かがや あきかぜ 稲なびく 金に輝く 秋風で	ふじわら りょう 藤原 稜	風に揺れる稲穂の輝きを感じさせます。収穫の喜びは、金に等しいんでしょうね。
	こえ からだ あか ほお セミの声 バタつく体 赤き頬	みやもと もも は 宮本 桃羽	部活動？駅伝？真夏に精一杯トレーニングして流れた汗、火照る頬。よく頑張っていました。
3	つらら て の こ 氷柱でき 手を伸ばす子の おぼつかなさや	もり ひ まり 森 日鞠	足下も凍っていることでしょう。つららを触ろうとする幼児の危なっかしさが感じられます。
	かみなりの 音にふるえる ふとんの中	たけうち ゆずき 武内 柚輝	轟音の雷、家の中にいても怖いものです。布団にくるまって止むのを待ってるのかな。
	みず う もみじ の やす 水に浮く 紅葉に乗って ひと休み	にし あいび 西 藍美	紅葉も終盤、水に浮かんだもみじに休む虫を見つけた？それとも風景に安らぎを覚えた？
	そらみ あ ほし かがや ひ 空見上げ 星と輝く ほたるの灯	ひらかわ み 平川 なな海	見上げた空に瞬く星と舞う蛍の競演。甲乙つけがたい美しさに、じっと見とれたことでしょう。
	さんぼみち みぶる あきちか 散歩道 身震いひとつ 秋近し	やすの あいり 安野 藍里	いつも通りTシャツで出かけた夕刻の犬との散歩、肌寒さに夏の終わりを感じたのかな？
	み あ さくら ち そらいろづ 見上げれば 桜まい散り 空色付く	やまな みずき 山名 瑞葵	桜の花の終わり頃、強風にあおられ一斉に散りゆく様は、空がピンクに染まったようです。

* 応募した各学年の作品の中から数点ずつを選んで、作者の意図は全く聞かない状態で、勝手な解釈や感想を書いています。本人の意図しない解釈もあるかも知れませんが、どの作品も作者の感性豊かに表現されており、それぞれの季節の情景が目に浮かぶ興味深いものでした。紙面の関係で点数が限られている上、俳句の知識がないものが選んでいることをご了承ください。これらの作品を含む全校生徒の作品を出品しています。

